

様式（第3条関係）

## 東京都とうきょうすくわくプログラム推進事業活動報告書

所在地	国分寺市本多3-1-7
園名	ベネッセ国分寺保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然、虫

<テーマの設定理由>

普段から自然や生き物に関心のある子どもたちの興味関心を広げるために、はじめに「自然」をテーマとして設定した。自然には戸外活動で触れたり、活用して楽しんだりしているため、普段から子ども達を感じている疑問や不思議などの興味関心をさらに深めていきたいと考えた。そして、自然をテーマにして活動していく中で子ども達の関心が”虫”になっていった。その関心をより深めるためにテーマを絞り虫として後半は活動を行った。日頃からカブトムシやダンゴムシの飼育をしているため、虫の性質や特徴を拡大しながら観察し関心を深めていきたいと考えた。

## 2. 活動スケジュール

まず、テーマを「自然」と大きなものにして様々な自然に触れる体験の機会を設けられるように職員間で話し合う機会を設ける。

《全年齢》

4月～ 戸外活動を積極的に取り入れて、自然と触れ合う機会を設ける。

5月 ひのきプールを体験する。

6月 「自然ってなあに？」という問いから子ども達の興味関心がどこにあるのかを引き出し、言葉や絵で表現する機会を作る。

7月～ カブトムシ、だんごむしの飼育を開始

子ども達の関心が「虫」になっていったため、テーマを「虫」とした。

《5歳児》

10月頃～ 捕まえた虫や見つけた幼虫を書画カメラを使って観察をする

11月、12月 調べた虫の特徴を友だちと共有して楽しむ。

## 3. 活動のために準備した素材、道具及び環境の設定

- ・書画カメラ、カメラ
- ・ひのきプール
- ・幼児用テーブル
- ・子ども用顕微鏡
- ・プロジェクター
- ・図鑑
- ・昆虫標本
- ・描画用の用紙、画材

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

戸外活動を多く取り入れ、子どもに自然と触れる機会を多く持てるように過ごした。五感を使って全身で楽しめるようにひのきプールを子どもフェスティバルという行事のなかで行った。このような活動を経て子どもたちに「自然ってなあに？」という問いを投げかけたところ、自然とは人間が作っていないものだという意見が出た。自分の見つけた自然を絵に描いたり言葉で伝え合う機会を作ったりした。そこから、身近な自然は「虫」ではないかと考えた。その中でも、よくいるアリについてたくさんの疑問が湧いてきた。子ども達それぞれが疑問に感じたことを図鑑や本、昆虫標本で探求した。新たな発見も多かった。そして他の虫にも興味関心が広がり、戸外活動で見つけた幼虫を書画カメラで拡大して観察したり、図鑑で調べたりして虫についての理解を深めていった。

### 〈活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

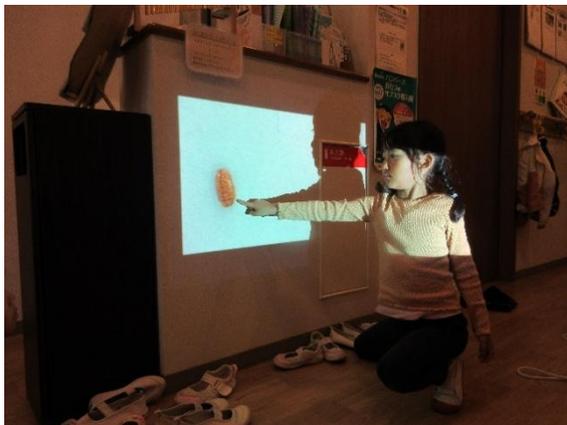
(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

戸外活動のなかで自然と触れ合うことが普段から多い子どもたちのため、遊びのなかで「これは何だろう?」「これは大きくなるのかな?」など疑問がたくさん湧いている姿があった。ひのきプールでは全身でひのきの匂いや感触を楽しんだため、「いい匂いがするね」「やわらかい」と新たな発見が多かった。

戸外活動やひのきプールでの経験からでた子ども達の疑問を図鑑や標本で調べていくことで、わかったことを共有する姿も増えていった。調べると分かるということが分かるほどどんどん疑問を持ってきて解決しようとしていた。その中でも子ども達の関心はアリにあって、普段からよく見掛けるが知らないことがたくさんあったことに驚いていた。アリの祖先は人間よりも前からいるかもしれないということが分かった時から、アリを大切にしようという気持ちがより高まっていて保育者も一緒に学ぶ楽しさを感じられた。

友だちが調べたことを見聞きすると、自分も調べてみようとする様子が増えていったいき、幼虫を大切に飼育していた。

### 〈活動の様子〉



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た職員の気づき>

今回の探究活動では、子ども達の自然に対する疑問や調べてみたいことを一緒に調べていくことで子ども達が普段どんなことに興味関心があるのか、どんなことを知りたいと思っているのかを知るきっかけとなった。体験は、全年齢を対象に行ったが、探究は今回5歳児に限定して行った。少人数で行うことで子ども一人ひとりの疑問と一緒に考える時間が持てた。

「自然ってなあに？」という問いに対して「人間が作っていないもの、全部」という意見が出たのだが、それに対して他の子どもたちもとても納得していた様子が印象的だった。その基準があったからこそ、自然がどんなものか分かりやすく、子ども達の「やってみたい」「それも調べてみたい」に繋がったのかなと感じた。調べたことや興味関心のあることを午睡前の時間に各々が伝えられる時間を設けた。友だちの調べたことを聞いてから、より深めたいという気持ちの高まる子が多かったため、共有することの大切さを改めて感じた。

職員間での共有をクラス会議や掲示をして行っていった。子ども達の「調べたい」「知りたい」という気持ちを長く持つためには、職員の連携が必要不可欠だと感じる。職員の共有と次へ何を活かすかという話し合いをよりしっかりと出来るように次にも活かしていきたい。